

受給者：野本実来

所属：上智大学大学院博士前期課程 グローバル・スタディーズ研究科 国際関係論専攻

研究課題：有機農産物の生産は、どのようにハワイ社会に役割を果たしているのか？

ー 有機農業におけるハワイ先住民の文化や価値観との関係性 ー

フィールドワークで得た成果

2023 年 10 月 29 日から 11 月 5 日にかけて、米国のハワイ州オアフ島でフィールドワークを行った。今回のフィールドワークの主な目的は、有機農業に関わる現地住民とのネットワークを構築、有機農園や有機農業を実践している施設を見学、また、それらの関係者の方々を対象にしたインタビューを行うことであった。Mohala Farms、Kahumana Organic Farms に訪問し、それぞれの農園の特徴についてインタビューを行った。そこでは、良い作物を栽培するためには、土などの身の回りの自然が持つ力に頼ることが必要だということを知ることができた。さらに、MA‘O Organic Farms に訪問し、農園を案内していただいた。この農園では、スローフードの概念に則り、生産者や消費者のことを co-producer と捉え、両者ともフードシステムを構築する上で同じくらい重要な関係者として扱っていることを知ることができた。また、非営利教育資源センターHoa‘Āina O Mākahealani でも調査を行った。そこでは、教育プログラムの一環として有機農業が位置付けられており、上記の 3 つの農園とは異なり、販売活動が行われていない。インタビューを通して、子どもを含めた地域住民で自分たちが慣れ親しんでいる野菜を育てることは、コミュニティ・エンパワメントにつながっていることを知ることができた。今後は、今回繋がった方々を対象にオンライン上での聞き込み調査などを行い、さらに研究を進めていく予定でいる。

今回のフィールドワークを通じて、ハワイの有機農園の運営内容・概念・特徴について捉えることができた。国際 NGO 団体 IFOAM は、有機農業の基本法則として、「健康の原理」「生態系の原理」「公正の原理」「配慮の原理」を掲げている。ハワイの有機農園も、「健康な土を使った栄養価の高い作物の栽培」、「自然とのつながり」、「消費者や提携先の方も含めたフードシステムの構築」、「科学のみならず伝統的な手法も交えた生産の実践」などを通して、より良い社会の構築を目指した有機農業を実践していることが明らかになった。さらに、生産者側の立場の人のみならず、自然や地域社会などの様々なものが互に関わり合うことで、有機農業が成り立っていることにも気づいた。また、ハワイの場合は特に、ハワイ先住民の食文化や価値観も関わっていることが農園の特徴であることがわかった。今回訪問した農園では、どこもハワイ先住民の伝統食であるタロ芋栽培を行うことなどで、伝統の継承に取り組んでいた。Waianae 地区に位置する MA‘O ORGANIC FARMS に訪れた際には、

その農園の目的に、aloha‘āina と呼ばれるハワイ先住民の土地に対する愛・尊敬・敬意を表した考え方が絡んでいることを教えてもらった。

今後の研究について

今回のフィールドワークを通して、「有機農園を中心としたフードシステムを構築する上で、生産活動がハワイの地元社会に果たす役割」に関心を持つようになった。特に、ハワイ先住民の文化や価値観がそれらの中にどのように関わっているのか関心がある。今後はまず、有機農園と関係性のある政府組織・コミュニティ施設・ハワイ先住民の思想や食文化などの役割や機能を注意深く見ていくとともに、それらがどのように有機農園と関わっているのか調べることである。その後、生産活動が社会に果たす意義について考えていきたい。